

高千穂交易株式会社

日本のエレクトロニクス・ルネッサンスと世界進出のゲートウェイ

代表取締役社長 井出 尊信

2023年9月の政府報告書によると、日本の力強い景気回復は、経済の半分以上を占める設備投資と個人消費の回復をもたらし、企業収益を押し上げたという。

世界の舞台でエレクトロニクスの優位性を再確認するために、日本は2030年までに日本製チップの売上を3倍の15兆円に増やす計画だ。スタティスタ社によれば、2022年、日本のエレクトロニクス産業は前年比11.7%増の12兆5,200億円の輸出を記録した。



1952年に設立された高千穂交易は大手技術商社で、最先端のエレクトロニクスに特化した製品やサービスを国内および海外市場に向けて提供している。

商品販売と付加価値サービスの融合により、近年天文学的な成長を遂げている高千穂交易について、井出尊信社長はこう説明する。「私が社長に就任した2018年以降、当社の株価は約1,000円から3,000円超へと3倍に上昇しましたが、これは業績の伸びに加え、株主還元の充実によるものです。コンサルティングから施工、保守までワンストップサービスを提供するのは、商社としてはユニークな取り組みです。例えば、高千穂交易のクラウドサービス&サポートセグメントのひとつであるMSPサービス*には、システムの設計・構築、機器、運用、保守が標準で含まれています。」

*クラウドネットワーク製品の保守運用・稼働監視業務をアウトソーシングできるサービス

同様に、高千穂交易のビジネスソリューションとリテールソリューション（高度なオフィスセキュリティ、入退室管理システム、認証装置から、店舗監視システム、トラフィックカウンター、セキュリティシステムまで）は、24時間365日のプロフェッショナルなカスタマー・サポート付きである。「社員の約4割がエンジニアで、製品の技術的なことを理解しています。そのため、ワンストップサービスを提供できるのです。だからこそ、25,000社もの長期的な顧客がいるのです」と井出氏は言う。

また、高性能半導体、IC、電子部品、センサー製品など、業種を問わずお客様のニーズに合わせた総合的なラインアップを提供している。高千穂交易は、快適な生活環境づくりを目指した「ムーブメントソリューション」の一環として、メカトロニクス製品を提供しています。高千穂交易は、快適な住環境の実現を目指す「ムーブメントソリューション」構想のもと、ハードウェア、ケーブルソリューション、電源製品、EV充電コネクタ、スライドレール、油圧リフトシステムなど、さまざまなメカトロニクス製品を提供している。これらの製品は、家庭用と産業用機械の両方の用途向けに設計されている。

高千穂交易は現在、中国、アメリカ、東南アジアで半導体と機械部品のグローバル・パートナーを探している。「売上高は国内が約70%、海外が約30%です。当社は日本に深く根付いており、大きな成功を収めていますが、今後は海外にも拡大していきたいと考えています。」と井出氏は話す。

現地の販売代理店やクラウド・サービス・プロバイダーとの提携を望むインバウンド企業にとって、高千穂交易は日本市場へのゲートウェイだ。実際、日本のGDPと輸出競争力がますます強化されている今こそ、日本への投資に理想的な時期だと井出氏はこう話す。「特に海外投資家にとっては、円安の今が絶好の投資先です。政治情勢も安定していますし、日本は依然として世界有数の経済大国です。」